

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立新居浜特別支援学校
学校番号 (54)

評 価 実 施 日

令和8年2月10日(火)

委員

氏 名

所 属 等

備 考

田中 政男

新居浜市中萩校区連合自治会 会長

白木 伸也

社会福祉法人わかば会 理事長

浅川 奈保見

絵手紙サークル「ゆめの会」

亀井 喜一郎

新居浜市中萩公民館長

三木 由紀子

愛媛県自閉症協会 会長
新居浜市心身障害者(児)団体連合会 会長

伊藤 義男

P T A会長

加藤 一

P T A副会長

谷 万悠子

P T A副会長

秋山 直樹

P T A副会長

井上 陽子

P T A副会長

高橋 麻美

P T A副会長

評 価 ・ 提 言 等

提言等に対する改善方策等

1 学習指導(児童生徒指導支援)

個に応じた支援が意識されている。児童生徒が失敗しても「大丈夫」と思えるような場面が多く見られた。このことによる児童生徒が感じる安心感が、学校評価での児童生徒の評価につながっている。子ども自身が失敗したことを隠さず伝えるということは、将来に向けて必要な力となる。

校内で異年齢間の交流に部を越えて取り組んでいる。子どもたちの社会性の育成にも大変有意義で良い経験につながると思われる。

2 進路指導

就労に向けてすべきことなど、保護者は経験して初めて分かるものだと思う。しておけばよいことなど、具体的な情報を知りたい。

教員も企業現場を見る機会があると、企業側とのすり合わせができ、より進路指導に役立つと思う。

3 安全教育(防災学習)

保護者も参加した減災ワークショップでは、高いレベルに合わせる必要はなく、参加者全員が確実に理解できる内容にするとよい。

放課後等デイサービス事業所において、実際に震度3程度の地震が起こった際、特別支援学校の子どもたちは自分で安全な姿勢をとっており、日々の学校での学習の成果が感じられた。

- 引き続き「分かる・できる・考える」授業実践に取り組む。失敗しない活動だけではなく、個に応じて成長につながる失敗経験も織り交ぜた学習活動を設定する。
- 今年度実践したような、部を越えた異年齢間の交流について、今後も継続して実施する。

- PTA座談会に卒業生の保護者を招いて、経験談として話をいただく機会をもてるようにしたい。
- 現場実習の引率や巡回指導の際に、生徒の様子を伺うだけでなく、企業や事業所の担当者と直接話す機会を設けるなどしたい。

- 引き続き年間を通して様々な状況を想定した防災学習(避難訓練)を実施する。
- 今年度実施した保護者も参加した減災ワークショップは初めての試みであった。実施する際は、内容をより充実させ、参加者が充実感を味わえるものとしたい。

4 PTA活動

PTA活動は参加した方は「やってよかった」「やってみたら面白かった」という感想が出ていることから、保護者同士が声を掛け合うことが必要である。その積み重ねがPTA活動の活性化につながる。

PTA施設参観については、校区外や県外にも行けると、関心が高まるのではないかな。

- ・PTA理事会記録、座談会報告、PTA 通信の配付と、ホームページへの掲載をとおして、PTA活動に参加した保護者の感想を載せるなどして、参加への意欲が高まるようにしたい。
- ・PTA施設参観の訪問先の選定については、県外を含めて検討する。

5 業務改善

先生方の長時間労働が心配である。先生方の心理的負担は子どもに対しても影響が出ると思われる。先生方には元気に子どもたちと関わってもらいたい。

- ・業務改善について、それぞれの教職員が得意分野を生かせる業務内容になるよう教職員間の連携や協力を図る。
- ・管理職が積極的にコミュニケーションを図り、同僚や上司に相談しやすい環境を整える。